



瀬戸小だより

ふれ合う 認め合う 共に学ぶ 笑顔あふれる瀬戸ヶ谷小学校

mail:y3setoga@edu.city.yokohama.jp http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/setogaya/

学校だより 3月号
令和5年2月28日
横浜市立瀬戸ヶ谷小学校
校長 松永 淳子
TEL 713-8336 FAX 713-9749

瀬戸ヶ谷小学校

検索

仲間

校長 松永 淳子

秋に環境委員会の子どもたちが種を蒔いた菜の花が、青々とした葉を茂らせ黄色いかわいらしい花を咲かせようとしています。他にも紅白の梅が校門の前を彩ったり、桜の芽が膨らんだり、春の準備をしていた植物が順にその美しい姿を見せています。

この時期になると教室の子どもたちも一年前の様子とは様変わりし、成長の様子が感じ取れます。そして次の学年に進む準備が、粛々と行われていきます。校舎の中は六年生を送るための飾り付けができ、感謝の気持ちがこもった作品となり仕上がっています。中学校へ進級していく六年生は友達との別れを惜しむかのように、仲間と集まり楽しそうに過ごしています。

学校教育活動では、子どもたちは、大きく二通りの仲間と学び合っています。一つ目は同じ学年の仲間、二つ目は異なる学年の仲間です。学校生活では一つ目の同じ学年の仲間との学び合いの時間が多いです。この集団の中では、お互いを理解し、助け合いながら相手の気持ちに思いを馳せ生活していきます。しかし、時には意見が合わず自分の主張に力が入ることがあり、トラブルに発展することがあります。これは、心の距離が近く、何でも言い合える関係だからこそ、お互いが素直な思いや感じたことをストレートに出し合うために起きることだと考えます。そんな時は、自分の言動を振り返り、相手の立場や気持ちを考えたり自分の心に折り合いをつけたりしながら、解決の方法を見つけ出していきます。このようなことを繰り返すことで、相手のことを思いやる力がついていきます。一方異なる学年の仲間とふれ合う時間は、学校生活の中では限られています。例えば、クラブ・委員会・なかよし学年の活動がそれにあたります。不思議と異なる学年の仲間との活動ではトラブルはあまり発生しません。それは、同じ学年の仲間の中で培ってきた力が、ここで発揮されるからではないかと感じています。学年の上の子どもたちが、下の学年の子どもたちは『何を考え、何を望み、どうして欲しいのか』など想像力を働かせ考え活動しているからではないでしょうか。下の学年の子どもたちも、そこでの活動に心地よさを感じ、自然と上の学年の子どもたちに感謝・憧憬の念を抱き、『自分もこんな風にできたらいいな、なりたいな』と考えるようになっていくようです。

三月、その仲間集団が変わる頃です。17日には卒業証書授与式や卒業生とのお別れの会が予定されています。六年生に「今までありがとう」という感謝の気持ちを伝え、瀬戸ヶ谷小学校の伝統を引き継いでいけるよう全校の仲間と、その門出のお祝いをしたいと思えます。

早春の陽だまりの中で戯れる子どもたちは、笑顔で元気いっぱいです。しかし、いつも順風満帆の時ばかりでなく天歩艱難の時もあったことでしょう。そんな子どもたちをここまで支え、共に歩み、ご協力いただいた保護者や地域の皆様へ深く感謝いたしております。学校では、子どもたちの体験や経験が、4月からの活動に繋がるよう、三月のまとめを行っていきます。

一年間、本校の教育活動にご理解、ご協力いただきましたこと、ありがとうございました。